

第1回 ライトノベル作法研究所主催 大夏祭り大会 選評評価シート

作品名: 「貧すれど鈍せず」

テーマ: 「武家なのに金にしわい美少女」

キャラクター

77

ストーリー

65

テーマ(設定)

79

文章力

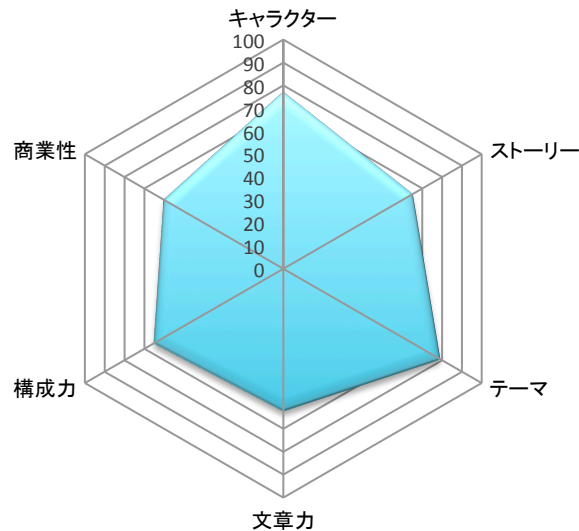
62

構成力

65

商業性

60



・細かい点

○ 基本的に彩花の行動理由がしつこく「金」もしくは「団子」に収束している点を読んでいて面白い。その良い意味での浅ましさと武家という厳格なキャラのギャップがよく、テーマの消化方法も巧いと感じた。+2

△ 所々一人称視点と三人称視点の不自然な混同が見られる。例えば「やるならば彩花一人でなければ」という表現は「やるならば彩花ひとりだけでなければ意味が無い」という三人称視点と「やるならば私一人でやらなければ」という一人称視点の混ざっているように感じられる。

・総評

正眼や八双といった説明無しの専門用語が登場することが多く、この点についてはもう少し詳細な説明が欲しいと感じる(テーマの忝いもそうだが、そもそも用語が難しすぎる)。また切り合いのシーンについて、全体的に非常に丁寧に描写されているが、それが逆にバトルシーンとしてのスピード感と、読者にそのバトルを想像させる余地を殺しているように思える。本作では彩花と文悟ならびに黒岩の行動そのものにスポットが充てられキャラ自体の心情の変化や深さが描ききれていないような印象を受けたため、バトルシーンで使った文字量をこちらにつき詰めば更に味が深い作品になったのではないかと感じる。(金と団子を本能で求める彩花レベルの強烈な個性を描けとは言わないが、黒岩の仁科道場に対する憎しみや文悟の気のきかないキャラクター性などはもう少し掘れたのではないかと)ただ全体を見れば、大枠から細かな点に至るまで丁寧に構築された世界観にはただただ唸らされた。作者様が実は彩花で、体験記を読ませてもらっているような錯覚。時代物のミステリーにラノベ的な雰囲気やうまく足されている点で、非常によく練られている作品であると感じた。また余談ではあるが、「貧すれど鈍せず」という貧すれば鈍するの逆を行った題名は個人的には非常に好きである。心は鈍せずという意味合いと刀は鈍らないという意味合いが二重で含まれているようなニュアンスを感じていいなあという感じ。(考え過ぎか?)

合計加点ポイント: 2

総得点: 408 / 600

B方式総合得点: 27944 点